

高齢者の衣生活の現状と既製衣料に対する問題意識

小山 京子・十一 玲子・森 由紀・森下あおい

美作大学・美作大学短期大学部紀要（通巻第63号抜刷）

高齢者の衣生活の現状と既製衣料に対する問題意識

An Overview of The Current Situation Regarding Clothing for Elderly People and
Their Awareness of Problems of Ready-Made Clothes

小山 京子¹⁾†・十一 玲子²⁾・森 由紀³⁾・森下あおい⁴⁾

キーワード：高齢者 衣生活 問題点 既製服 適合状況

緒言

内閣府の平成29年度版高齢社会白書によれば、2016年（平成28年）10月1日のわが国の人口は12,693万人であり、その内高齢者は3,459万人で、全人口の27.3%を占めている。2013年に行われた同調査の高齢化率は25.1%で、国民の4人に1人が高齢者となった。2015年には団塊の世代が高齢者となり、高齢化率は2年間で1.6%増加し、26.7%となっている。

このような急激な高齢化の中において、自立した生活を送っている人も少なくない。そのような高齢者は、毎日の生活や外出のためのファッションに対する関心も高く、これまでの高齢者に比べ衣生活にかかわる意識にも変化があると思われる。元気で若々しく、おしゃれを楽しむ傾向がみられる高齢者ではあるが、若年者に比べ体型の変化が著しい上に個人差が大きいため、既製服による対応が難しい。

高齢者の衣生活にかかわる先行研究は、2000年頃までは多くみられたが、高齢化率が約17%以前のものである。高齢化率が23%を超えた2010年以降、高齢女性の衣生活に関する意識調査^{1) 4)}はあるものの、既製衣料に対する意識調査はみられない。

そこで、一般的には65歳以上を高齢者としているが、ここでは、その予備軍ともいえる60歳以上を対象

に衣生活の現状を調査し、現在着用している既製服に対する問題意識の中から、今後の衣生活改善につながる方向性を探ることを目的とする。

方法

中国・関西地方に在住の自立した生活をしている60歳以上の男女350名を対象に、2016年6月～7月にかけて、留置き法による質問紙調査を行った。

調査内容は、基本属性、既製服の購入枚数・入手先・基準などの実態、衣生活に関する態度、既製服に対する問題意識である。衣生活に関する態度や問題点16項目については、5段階評価で回答を求めた。また、自由記述により既製服に対する要望を尋ねた。

これらについて、単純集計ならびにクロス集計を行った。衣生活の意識や行動10項目、既製服の問題点6項目、年間の衣服購入枚数については、仕事、趣味、ボランティア活動の有無、年齢、居住地域などの属性による平均値の差の検定を男女別に行った。年齢については、対象者の平均値70歳未満と以上に2分割し、居住地については、中国地方と関西地方に分けて検定した。

他の項目については、同様の属性による χ^2 検定を男女別に行った。

既製服に対する要望の自由記述に関しては、KJ法により解析した。

対象者の基本属性を表1に示した。女性288名、男

¹⁾ 美作大学生活科学部社会福祉学科

²⁾ 神戸女子大学家政学部家政学科

³⁾ 甲南女子大学人間科学部生活環境学科

⁴⁾ 滋賀県立大学人間文化学部生活デザイン学科

表 1. 基本属性

	人数 (人)	平均年齢 (歳)	居住・夫 婦のみ (%)	居住・1人 暮らし (%)	居住・5人 以上 (%)	仕事・有 (%)	趣味・有 (%)	ボラン ティア活 動・有 (%)
女性	288	69.7	35.4	8.7	11.8	30.9	80.2	26.7
男性	62	69.2	54.9	1.6	16.1	53.2	77.4	19.4

表 2. 洋服の年間購入数

	ブラウス・ シャツ	ジャケッ ト	セーター	Tシャツ	ワンピース	スカート	ズボン	ベスト	コート・ ジャン パー	その他	合 計
女性	2.2	0.8	1.2	2.3	0.3	0.3	2.1	0.4	0.6	0*	10.2
男性	1.7	0.6	0.6	1.9	—	—	1.8	0.3	0.7	0.1*	7.7

*: 有意差あり (p<0.05)

性62名の平均年齢は、共に約70歳でほぼ同じである。女性の約1/3、男性の5割強は夫婦のみで暮らしており、高齢者夫婦のみで居住している人が多い。男女ともに1人暮らしは少なく、1割強は5人以上の家族と暮らしている。

仕事をしている女性は3割、男性は5割で、趣味をもっている女性は8割、男性は8割弱と共に多く、旅行やスポーツ、文化活動など、その内容は多岐にわたる。また、女性の1/4、男性の2割がボランティア活動を行っており、内容は子育て支援、清掃、民生委員、地区長、ピアノ演奏など趣味以上に多岐にわたり、その殆どが趣味を持っている。

結果ならびに考察

1. 洋服購入の実態について

洋服の年間購入枚数 結果を表2に示した。年間購入枚数は相対的に少なく、男女ともに「ブラウス・シャツ」「ズボン」「Tシャツ」などが比較的多かった。購入枚数が少ないのは、女性では「ワンピース」「スカート」、男性では「ベスト」「ジャケット」「セーター」などであった。秋田ら⁵⁾が1982年に行った調査では、女性はスカートとワンピースのみであったが、2013年の呉ら⁴⁾の報告によれば、スカートよりズボンを多く所持し、よく着用していることが確認されており、本調査でも同様の結果であった。

全ての服種を合計し、年間購入枚数を算出した結

果、女性10.2枚、男性7.7枚となり、両者に危険率5%で有意差が認められ、女性の購入枚数が多かった。また、女性は、中国地方9.0枚、関西11.2枚となり、両者に危険率5%で有意差が認められ、関西の女性の購入枚数が多かった。

洋服の購入は主に誰と行くか 結果を図1に示した。女性の61.8%は「1人」、次いで12.5%が「友人」、11.1%が「娘」であった。男性は53.4%が「妻」、次いで「1人」が39.7%であった。女性は1人で行く人が最も多く、男性は妻と行く人が半数を超えている。

洋服の購入先(3つまで複数回答) 結果を図2に示した。女性は「専門店」52.4%、「デパート」42.7%、「量販店やスーパー」42.4%であった。男性では「量販店やスーパー」69.0%、「専門店」48.3%、「デパート」31.0%であった。男女の上位3位までの順位は代わるが、項目は同様であった。女性では、「カタログ通販」も21.5%と多くみられた。

洋服の選択基準(3つまで複数回答) 結果を図3に示した。女性では「デザイン」72.2%、「サイズ」60.1%、「色や柄」58.3%、「価格」38.2%が多く、男性では「色や柄」60.3%、「サイズ」56.9%、「価格」53.4%、「デザイン」48.3%の順となり、次いで男女とも「素材」が挙げられた。男性が女性に比べ「デザイン」の選択基準が低いのは、男性にとって既製服は、そもそも種類が少ないなどのデザイン上の問題があるからと考えられる。

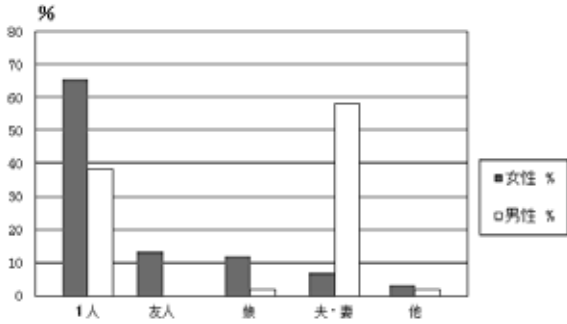


図1. 誰と行くか

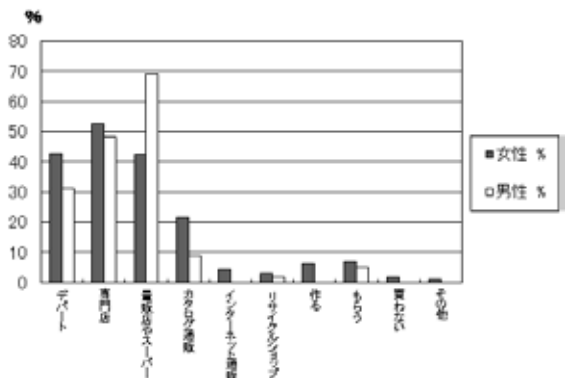


図2. 購入先

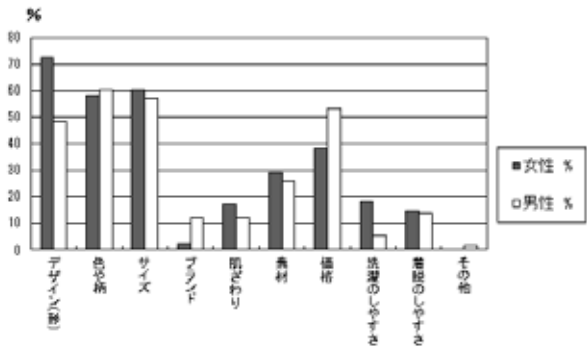


図3. 選択基準

選択基準について、各属性とのクロス集計を行った結果、「デザイン」については、男女ともに年齢による差が認められ、70歳未満の方が「デザイン」を気にしていることがわかった。また、男性の場合、仕事の有無により「デザイン」を基準とする人の数に危険率5%で差があり、仕事をもっている方が多かった。

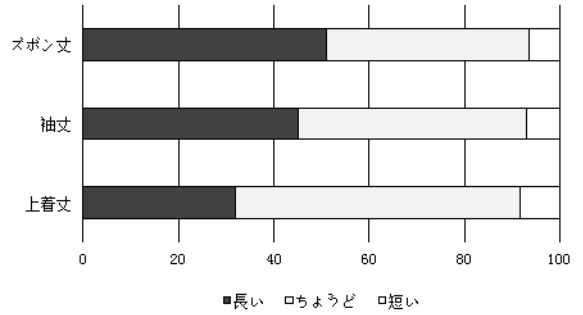


図4. 既製服の適合状況 (女性)

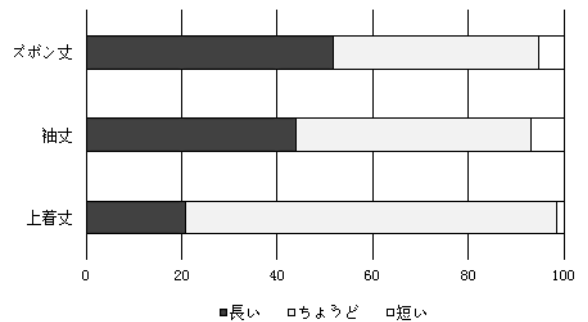


図5. 既製服の適合状況 (男性)

70歳以上の女性については「着脱のしやすさ」を購入基準とする人が多くみられた。

これらの既製服購入の実態から、女性の多くは1人で専門店やデパートに行き、デザイン、サイズ、色や柄を基準に購入していることがわかった。また、カタログ通販の利用もみられ、選択や購入に関する行動が多様で、衣服への関心が高いと思われる。男性は、妻と一緒に量販店やスーパー、専門店に行き、色や柄、サイズ、価格などを基準に購入していることがわかった。男性は女性に比べ、ポロシャツ等スポーツウエアを着用していることが多く、量販店やスーパーでもスポーツ専門の販売スペースで購入しているものと思われる。また、男女ともに70歳未満の方がそれ以上に比べて、「デザイン」を購入基準として多く挙げており、おしゃれに関心が高いと思われた。

2. 既製服の寸法について

既製服の「上着丈」「袖丈」「スカート丈」「ズボン丈」

「肩幅」「胸回り」「首回り」「ウエスト回り」「ヒップ回り」の9項目の寸法について、「長い・広い・ゆるい」「ちょうどよい」「短い・狭い・きつい」の3つの選択肢から選んでもらった。ズボン丈、袖丈に対しての不満が多く、既製服の適合状況として図4・5に示したように、男女ともに「ズボン丈」「袖丈」の2項目を「長い」、女性は「上着丈」も「やや長い」と答えた。特にズボン丈を長いと思っている人が多く、他の6項目については「ちょうどよい」の選択が多かった。

これらの適合状況について、年齢によるクロス集計を行ったところ、女性のズボン丈について、危険率5%で有意差がみられ、「短い」と感じている人が70歳未満に多く、「長い」と感じている人が70歳以上に多い結果であった。近年の高齢女性の身長データの発表されていないが、70歳未満と以上の差があると考えられ、ズボン丈の適合性にも影響があると思われる。

3. 衣生活に関する態度

衣生活の意識や行動10項目に対して、「そのとおり」から「そうでない」まで5段階に点数化した結果を図6に示した。全体的に女性の点数が高く、その中でも「自分のイメージや個性にあった服装を心がけている」が最も高く、「おしゃれである」「洋服を見て回るのが好きである」が続く。「品質表示を見て購入する」についても「ややそのとおり」と回答している。高齢女性は、自分の個性に合ったおしゃれをし、素材や洗濯方法を確認するために品質表示を見ていることがわかった。

男性の点数は相対的に高いとはいえないが、女性と同様に「自分のイメージや個性にあった服装を心がけている」が最も高く、「ゆとりのある服が好きである」が続いている。女性、男性ともに、「手持ちの服をリフォームして着たい」が、もっとも低い点数となった。

年齢による差については、図7のように、男女ともに「ゆとりのある服が好き」に対し、70歳以上の方が危険率1%で高い点数をつけており、高齢になるほど、ゆとりが大きく楽な衣服を好むと推察される。また、女性では70歳未満の方が「洋服を見て回るのが好

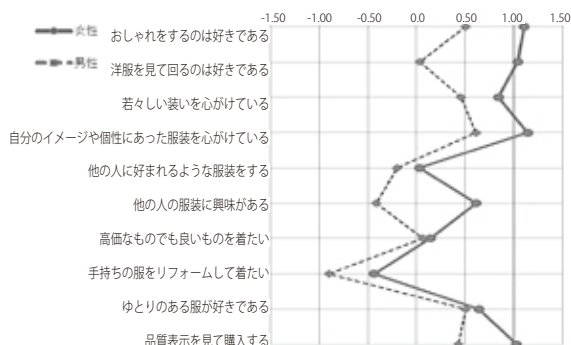


図6. 衣生活に対する態度

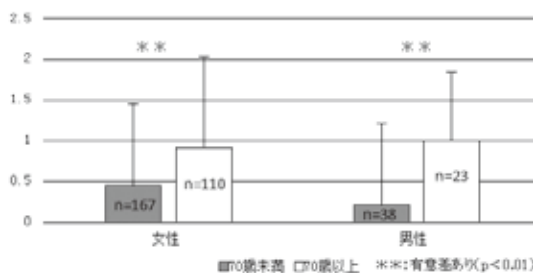


図7. 「ゆとりのある服が好きである」の点数

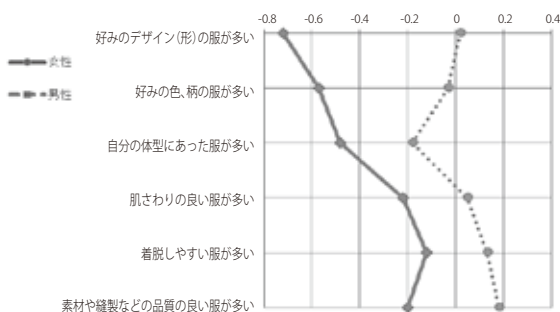


図8. 既製服に対する問題点

きである」に高い点数が得られた。

仕事、趣味、ボランティア活動の有無による差をみたところ、女性では「おしゃれをするのが好きである」「自分のイメージや個性にあった服装を心がけている」について、趣味をもつ人の方が危険率1%で高い結果となっており、男性では「他の人に好まれるような服装をする」について同様の結果となった。このことから、仕事やボランティア活動より、趣味の有無が

衣生活の態度に関連していると示唆された。

4. 既製服に関する問題点

既製服の問題点6項目に対して、「そのとおり」から「そうでない」まで5段階評価した結果を図8に示した。女性ではすべての項目においてマイナスの評価となり、既製服に対する多方面からの問題点を抱えていることがわかった。最も評価が低かったのは「好みのデザイン（形）の服が多い」(-0.72)であり、続いて「好みの色、柄の服が多い」「自分の体型に合った服が多い」の評価が低かった。男性では、すべての項目において、ほぼ0に近い「どちらでもない」の評価であった。

女性では「好みの色、柄の服が多い」は危険率5%で、「着脱しやすい服が多い」は危険率1%で年齢間に差がみられ、70歳以上の評価が低かった。男性においても「肌ざわりの良い洋服が多い」について、70歳以上が危険率5%の有意差で「少ない」と感じていることがわかった。

仕事、趣味、ボランティア活動の有無、居住地域による差がみられなかったことから、既製服に対する不満はこれらの属性より年齢が関連し、高年齢ほど既製服の問題点が多くなると示唆された。

5. 自由記述

既製服に対する要望を自由記述してもらった結果、回答があったのは144名で、ほとんど女性であった。その記述から152枚のカードを作り、AからFの6つのカテゴリーに分け、要望の一部を次にあげる。

- A……色・柄、デザイン…13枚
- B……価格……………6枚
- C……素材、着脱……………16枚
- D……縫製、作る……………15枚
- E……サイズ……………64枚
- F……その他……………38枚

カテゴリーAには「中高年の服はダークなカラーが多い」「ゆったり目のサイズにも若々しい服を」など若々しい色やデザインの要望があった。

カテゴリーBには、「上品ないいものが安価で入手できれば」と、安価で良いものを望む声があった。

カテゴリーCには、「肌触りのいいものが少ない」「洗濯の難しいものが多い」「着脱しやすい生地や寸法の服が欲しい」などの要望があり、高齢になり肌触りの良い素材や、簡単に洗濯ができるものを求めていることがわかった。

カテゴリーDには、「ボタンが取れやすい」「自分で直して着用する」などがみられ、自分で針を持って簡単な修正を行っている様子が伺えた。

カテゴリーEのサイズに関する記述は64枚と最も多く、「メーカーによってサイズが異なる」「小さいめの服を探すのに苦労」「体型に合うものが少ない」「大きい目の服も商品を増やして欲しい」とサイズに関わるものと、「袖丈が長い」「ズボンの裾が長い」など丈に関わる不満が挙げられた。改めて、高齢者の体型は多様であり、幅広いサイズ展開が求められていることがわかった。

カテゴリーEのその他では、男性からは「妻の用意したものを着る」「妻任せ」などの記述がみられ、衣生活を妻に任せている様子が伺えた。女性では「スーパーではビッグサイズはあるがスモールサイズがない」「最近購入していない」「どんな服装をすればよいか悩む」「何を着ても顔映りが悪く服が選べない」など多岐にわたる不満や希望が寄せられた。一方で、「服がたくさんありすぎて着る回数が限られる」などの回答もみられ、年齢が高くなり、それまでと異なった衣生活を送っていることが伺えた。

まとめ

2015年に団塊の世代が高齢者となり、わが国の高齢化率は年々上昇している中、元気に生活している高齢者も多い。しかし、若年者に比べ体型の変化が著しい上に個人差が大きいいため、既製服による対応が難しい。そこで、60歳以上の男女350名に衣生活に関わるアンケート調査を行い、その結果を分析した結果、次のような傾向がみられた。

(1) 女性は、おしゃれや他人の服装にも興味を持ち、

- 1人で専門店やデパートに行き、デザインやサイズを基準に購入したり、カタログ通販を利用するなど、選択や購入に関する行動が多様で、衣服への関心が高い。
- (2) 男性は、女性に比べてデザインの選択肢が少ない中、妻と一緒に量販店やスーパー、専門店に行き、色や柄、サイズ、価格などを基準に購入している。
- (3) 既製服の適合状況に対しては、男女ともにズボン丈、袖丈が長いと感じており、自由記述の中にも、丈に対する不満が多くみられた。
- (4) 洋服の選択基準については、男女ともに70歳未満の人がそれ以上より「デザイン」を多く挙げ、女性では70歳以上の人が「着脱のしやすさ」を多く挙げた。高齢になるほど、デザインを気にしなくなるのか、あるいは、デザインよりも優先される基準が多くなるのか、さらに追及が必要である。
- (5) 男女ともに高齢になるほどゆとりのある服を好み、趣味を持つ人が積極的な衣生活を送っていると推察された。
- (6) 中国地方と関西地方では、女性の年間衣服購入枚数に差が出たのみで、衣生活に関する態度や既製服に対する不満には、地域差はあまりないものと考えられる。
- (7) 高齢者の体型は多様で、今以上に既製服に対する幅広いサイズ展開が求められている。また、男女を問わず肌触りの良い素材、女性は明るい色調や若々しいデザインなどを求めていることが明らかになった。
- 3) 瀬戸房子、大平さやか (2012) 高齢女性の衣服と衣生活に関する意識調査、鹿児島大学教育学部研究紀要、人文・社会科学編64.75-94
- 4) 呉僖京、田村照子、廣川妙子 (2013) 高齢女性の衣服設計に向けた衣生活調査、日本感性工学会論文誌12-2.335-341
- 5) 秋田玲子、清水信子 (1982) 高齢者婦人の衣生活実態調査、日本衣服学会誌26-1.27-32

引用文献

- 1) 安永明智、谷口幸一、野口京子 (2011) 高齢者における装いへの関心とQOLの関連、文化女子大学紀要、人文・社会科学研究19.63-72
- 2) 今井素恵 (2012) 高齢者と若年者の衣服の実態調査から考える衣生活、岐阜市立女子短期大学研究紀要第61.109-116